



るるてる



2025 年
11 月
No.935

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631
■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座■ 00190-7-71734

説教「イエス様は知っておられるから」

日本福音ルーテル広島教会・西条教会・松山教会牧師 立野泰博

「神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエスキリストによる救いにあずからせるように定められたのです。」
(テサロニケの信徒への手紙1:5-9)



伊藤賢奈
68 あゆみ



「神様を信じたら良いことがあると思つたら、悪いことしかおこらない」と訴えてきた人がいます。確かに神様を信じることで良いことばかりがあるとは限りません。むしろ都合の悪いことばかりと思つてしまうかもしれません。

悪いことでも感謝して受け取ることができるか。どんなことにも感謝することができるか。

11月になると天に召された信仰の先輩たちが、キリスト者としての人生すべてに感謝しておられたことを思い出します。「ありがとう」を残して神様の御許に召されていかれました。その「ありがとう」が今日もここに遺っています。

なぜなら、神様を信じると「自分にとつて都合の良い」ことばかりは起こらないからです。むしろ、神様から与えられた本来の道を歩くため、悔い改めの道が与えられるのです。それは私たちを救いへと導くためです。

「自分にとつて都合の良い」ことを考えると、そこには自分しか見えていないのです。自分に都合が



「ゲッセマネのキリスト」(1890)
ハインリッヒ・ホフマン

テサロニケの信徒への手紙一は、聖書の中でも最初に書かれた手紙です。教会はその時、迫害と試練のなかにありました。そのような中でパウロは感謝する「という言葉からこの手紙を書き始めています。また有名な言

葉「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」(5・16-18a)という言葉で手紙を締めくくっています。試練や迫害の中にあつてもイエス様が共に居てくださることを証しするのです。

この箇所も、神様は私たちを怒りに定めるのではなく、何とかしてイエス様の十字架によつて救うために働かれると告げています。それは人々の試練や苦しみをよく知つておられるからです。信仰の先輩たちは「どんなことにも感謝しなさい」の「どんなこと」の中に、何がどれだけ入っているかを考えて「なんと教えられました。またその人の信仰が見えると。」「どんなこと」とは「どんなこと」であり、実は神様に導かれてすべて感謝することができると教えて下さったのです。

ある時、信徒の方の手に包帯があるのを見てビックリしました。何があつたかをお聞きすると、寒い日に地面が凍つ

ていて、そこを通るとき足を滑らせたそうです。とつさに手をついた時、左手の小指を骨折されたそうです。とても痛そうでした。ところが、骨折されているのにとても明るいのです。その方が言われるのは骨折したのは痛いけれど、「右手でなくてよかった」、「手首でなくてよかった」、「旅行のあとでよかった」、「料理ができるからよかった」、「礼拝に来ることができてよかった」、「皆さんにお会いできてよかった」、「この痛みでたくさん教えられてよかった」と言われるのです。

人生は考え方次第で恵みにも苦難にもなりまします。コップに半分の水が入つていても、ある人は「半分しか水がない」と言い、ある人は「半分も水がある」と言います。また「半分は空である」という見方もあります。同じものでも見方が違います。私たちはどうせ見るなら信仰によつて受け取る、キリスト者として生きる見方をしたいです。試練

や失敗があつても、これは神様が何かを教えてくださるためと思い感謝できたらと願います。そのような見方によつて初めて神様の御心が分かるのだでしょう。

パウロは「神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエスキリストによる救いにあずからせるように定められたのです」と教えています。大きな試練や苦しみの時でも、イエス様は共に居てくださいます。何とかして人を救いに導くために寄り添つておられます。「あなたの痛みを知っている」とイエス様は言われます。その御言葉に救われるのです。神様は私たちを救いに導くために、今日も十字架の上から声を掛けてくださっています。

教会の宣教が伸び悩む中でも、感謝して何か始める勇氣を持ちたいと思います。信仰の先輩たちから受け継いだ教会を未来に引き継ぐために、いまを感謝して。

「信仰にしっかりと踏みとどまつて、悪魔に抵抗しなさい。あなたがたと信仰を同じくする兄弟たちも、この世で同じ苦しみに遭つています。それはあなたがたも知っているとおりです。」(ペトロの手紙1:5-9)

さ・し・す・せ「せ」から始まる歌は五十音の「文字」文字から始まる歌を考えて遊んでいた。「せ」から始まる歌：『線路は続くよどこまでも』

そう言えば昔、電車から見る線路がずーつと続いていて、見ているのが大好きだったな。電車は脱線しないように決められた道をなるべく時間に遅れないように走つて行く。そして駅に止まつてお客さまを運ぶ。運ばれたお客さまは遅れないで目的地に着けば満足な人が多いかな。

でも、お二人お一人は決められた道を歩いていたとしても脱線したり、止まつたり、引き返したり、迷つたり、いろいろされる方がおられます。



それでいいと思います。帰るところがあります。あなたがたも待つている方がおられます。「私、前を向いて走つてばかりいました。止まつてもいいんですね。」とか、「この世には良いものばかりじゃなく、それとは反対の悪いと言われるものも必要なんだ。」とか、「時々歩いているときふと立ち止まつて空を見上げて雲を見つて、つてすてきたなつて思わせてくださるいくつかの言葉に出会いました。」

「人生はカーテンみたいなものだよ」と言つた人がいました。「どんなに丈夫な布でも緩みもなくずーつと張つていたら少し何かが布にぶつかったら簡単に裂けてしまふし、緩みづななしではカーテンとしては役に立たなくなる。適度な緩みを持つてレールにつながつていれば安心ですよ。」つて。あなたも私も緩んだり、止まつたり、迷つても良いんです。帰るところがあるから。

リレーコラム

「全国の教会・施設から」③〇



■日本福音ルーテル
日吉教会

秋吉亮

（日本福音ルーテル
日吉教会代議員）

日吉教会は、1957年に始まった川崎地区での開拓伝道を源流とし、1962年に横浜市港北区日吉の地に牧師館が建てられ、正式に発足しました。創立当初から、横浜教会をはじめとする近隣の教会との交わりに支えられながら歩んできました。

1968年には現在の教会敷地の東側半分を購入し、翌1969年には警宮の神学校の礼拝堂を移築して使用するという恵みにあずかりました。これにより、礼拝の場が整えられ、地域に根ざした宣教活動が本格化していき

ました。

日吉教会へのアクセスは、日吉駅からバスに乗り終点から徒歩3分、日吉駅から歩くと20分かかり、自家用車での来会者



クリスマス礼拝の様子

合同役員会や合同礼拝を行っており、教会員同士の交わりも深まっています。

日吉教会の信徒が横浜教会の礼拝に出席した

り、奏楽に携わったりする一方で、横浜教会の信徒が日吉教会の礼拝に参加するなど、互いに支え合う関係が育まれています。2枚目の写真は、横浜教会との合同礼拝の後、それぞれの教会の歴史を紹介している場面です。互いの歩みを知り、感謝を分かち合うひとときでした。

神様が、日本福音ルーテル教会全体に、進むべき道を示してくださいように祈ります。



合同礼拝後お互いの教会の歴史を分かち合う

■社会福祉法人慈愛園・慈愛園老人ホーム・慈愛園ケアハウス

潮谷一紀

（社会福祉法人慈愛園
慈愛園ケアハウス
生活相談員）

「わたしの兄弟たち、自分には信仰を持っていると言っている者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が彼を救うことができるとは、兄弟があるいは姉妹が、着る物もなく、その日の食べ物にも

事欠いているとき、あなたがたのだけれど、彼らに『安心して行きなさい。温まりなさい。満腹するまで食べなさい』と言うだけで、体に必要なものを何一つ与えないなら、何の役に立つでしょうか。信仰もこれと同じです。行いが伴わなければ、信仰はそれだけでは死んだものです。『ヤコブの手紙2:14-17』

社会福祉法人慈愛園はアメリカからの宣教師

モード・パウラス先生によつて1919年に熊本の地に誕生しました。初めは孤児、身寄りのない老人、不遇の婦人のための救済事業としてスタートしました。それから106年の長い年月がたつた現在では、乳児院、保育所、児童養護施設、障がい児者入所施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム等の計11事業所を運営しています。

私の職場である慈愛園

老人ホームと慈愛園ケアハウスでは、毎日の朝礼で聖書の御言葉に触れ、次にパウラス先生の生い立ちと慈愛園創立期からその後の歩みまでが書かれた『くるみの実のなるころ』を通読し、職員一同で祈りをささげています。この時間は職員が慈愛園の理念と実践、キリストの愛について理解を深める大切なひとときとなっています。

さて、冒頭の聖書箇所は、キリスト教の知識や慈愛園の理念を頭で分かっているだけでは、実践に生かすことができないければ、何の意味もないことを強烈に示唆する御言葉です。

慈愛園の事業は、創立

期から今日に至るまで、パウラス先生の信仰と熱き使命感、あわせて先駆性と専門性を兼備した諸先輩方の実践によつて発展してきました。そこにはまさに信仰に基づく実践実践に伴う信仰があつたと言つても過言ではありません。

最後に、慈愛園が大切にしてきたパウラス先生の言葉として「散らされた人々を集め、一人も失われないようにする」というものがあります。これは人と人とのつながりが希薄化し、孤立が深刻化している現代においても、見失つてはならない普遍的な実践理念です。この理念を胸に

私自身も慈愛園の職員として、祈りと神様の導きにより仕事に従事していく思いです。神様の愛が皆さまと共にありますように。



改 宣 教 室

小泉基

（日本福音ルーテル
札幌教会校師・宣教室長）

山田征郎さん
（日本福音ルーテル
浜名教会信徒）

小泉 今日、能登の

輪島市町野町のもとやスーパにあるボランティアセンター、もとやベースにお邪魔しています。能登の復興にはまだまだ時間がかかりそうですね。山田さんはいつからここに居られるのですか？

山田 はい、ここで生

活するようになったのは能登地震から1年後の今年の1月からです。昨年12月にテレビでもとやスーパの被災の様子や、そこから立ち上がろうとしておられる本谷社長のお話しを見て、行くしかないと思つたのです。本谷社長に電話をかけ、長期ボランティアとして受け入れてもらい、その結果ボランティアセンターの管理人のような仕事を任されることになりました。多いときは60人くらいが泊まることもありま

すが、今は平日は2〜3人、土日は10人前後が宿泊して、ボランティアをしたり、被災地を学びに来たりしておられますね。

小泉 これまでも災害ボランティアの経験が

山田 友人に誘われて

2004年の中部地震のボランティアに入ったのが最初でした。もともと街の電気屋さんだったので、10年程前に引退したこともあり、被災地でお役に立てることがあるかもしれないと考えたのです。その後、東日本大震災、房総半島台風、長野水害などでもボランティアとして現地に入りました。

小泉 あちこちでボランティアをしてこられたのです。町野町では、相当長期のボランティアになつていますが、被災地ボランティアの喜びを教えてください。

山田 全国からやつて来るボランティアさんたちとのつながりを感じられることなんです。被災地で暗唱したヨハネによる福音書10章11節の「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」は、今も心に残っています。



山田征郎氏近影

れることです。被災して困っている人を助ける、という一点でつながって、一緒に汗を流し、本音で話し合い、協力し合えることに大きな喜びがあります。ぜひ多くの方に被災地の現場に足を運んでいただきたいと思っています。

小泉 ありがとうござ

山田 小学校の時の同級生に牧師の子が居て、一緒に教会学校へ行くようになり、高校生の時にその教会で受洗したのです。結婚した後、静岡県に住むことになって日本福音ルーテル浜名教会に転会しました。教会学校で暗唱したヨハネによる福音書10章11節の「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」は、今も心に残っています。



浅野直樹 Sr.
(日本福音ルーテル市ヶ谷教会牧師・世界宣教主事)

創造の時節

毎年9月1日〜10月4日は創造の時節(Season of Creation)です。地球の保全を覚えて取り組むために祈り、礼拝する時としてエキメニカルな働きとして設けられました。今年の初日には世界ルーテル連盟(LWF)副議長た

TNG委員会ユース部門主催・社会委員会共催「リーダー研修キャンプ報告」

多田哲 (日本福音ルーテル 合衆教会・水俣教会牧師・TNG委員会ユース部門長)

9月1日(月)〜4日(木)の4日間、沖縄にてTNGユース部門・社会委員会共催のリーダー研修キャンプが行われました。青年4人、TNGスタッフ2人の計6人と、社会委員会からの3人を加えて全部で9人の参加でした。初日は日本基督教団

の糸満市にある第一外科壕跡、ひめゆりの塔と資料館、平和の礎を訪問。ひめゆり学徒隊の方々の実

ちが世界の教会リーダーとともに礼拝に加わり、この時節を守りました。創造の時節は、さまざまな伝統をもったキリスト教徒が各大陸から集まりひとつとなつて、神の創造を覚えて礼拝する時です。今年のテーマ「創造の平和」の主眼は、生態系の正義をキリスト教信仰の立場から求めるという緊急の呼び掛けでした。

開会礼拝でブラジルのルーテル教会副議長グナス牧師が聖書朗読すると、異なる教派や地域の参加者たちの声がつながりました。コロンビアのミランダ監督が、地元

LWF事務局長のブルクハルト牧師は、ルーテル教会が創造の保全に力を尽くしていくことを表明し、「直ちに行動を」との呼び掛けに

加する教会が増えることを願っています。LWFはこの時節を覚えて礼拝のための式文と実践アイデア集「セレブレーション・ガイド」を英語とドイツ語で用意しています。LWFのウェブサイトからダウンロードできます。これはLWFのほかにWCC、ラウダート・シ運動、アングリカン環境ネットワーク、世界改革派共同体、ACTFライアン

際証言を記録した映像は本場に訴えかけるものがあります。夕方には普大間基地のゲート前に移動し、毎週ゴスペルを歌って抗議する集会に参加。そこで歌った聖公会聖歌423番『沖縄の磯に』が心に響きました。この集会は最後に「もしも来週まだここに基地があつたら集まりましょう」と締めくくります。基地問題は決して変えられない現実ではないという希望を感じました。

2日目は北上し、名護市辺野古にある米軍の新基地建設現場で毎日なされる座り込みの抗議運動に参加しました。その後、フェリーに乗って伊江島に渡り、阿波根昌鴻さんのヌチドウタカラの家があるわびあいの里を訪問。ご自身も沖縄戦を体験された代表理事の謝花悦子さんから平和のために学び続けてほしいというメッセージを今年も受け取りました。それから団結道場、公益質屋跡、米軍飛行場を見学。

3日目は、読谷村にあるチビチリガマとシムクガマを訪ねました。この二つのガマは至近距離にありながら全く異なる道を辿りました。両方のガマに住民が避難していましたが、チビチリガマには中国大陸から帰ってきた人がおり、日本軍が現地住民に行つた残虐行為を見てい

たので、敵軍に捕まつたら何をされるか分からないと言つて全員自決に至りました。シムクガマにはハワイから帰つてきた人がおり、英語を話すことができました。それで米軍と英語で意思疎通し、全員投降して生き残りしました。その後、嘉手納基地を望む道の駅かでなを訪問。嘉手納町は町域の82%が米軍基地です。日本の国土面積の0.6%しかない沖縄県に全国の米軍基地の70%が集中しています。この日も戦闘機や空中給油機、輸送機などがひっきりなしに離着陸を行い、大きな騒音が鳴り響いていました。その後ぎのわんせミナーハウスに戻り、高里鈴代さん(基地・軍隊を許さない行動する女た

平和の礎(摩文仁)での集合写真



辺野古基地建設現場搬入口での抗議行動の様子

第37回教会音楽祭メロディー公募のお知らせ

秋吉亮 (日本福音ルーテル 日吉教会(信徒))

作品は、当日賛美します。詳しくは左記の通りです。

第37回教会音楽祭を開催することになりました。ぜひご予定くださり、ご参加下さい。

今回のテーマは【あらゆる民は叫ぶ「救いは神と小羊に」】(ヨハネ黙示録7章9、10節から)です。この聖句による新しい二つの歌詞(平良愛香師作詞、峯野慈朗師作詞)に付けるメロディーを公募します。出来上がった

第37回教会音楽祭 日時 2026年7月4日(土)午後1時30分 場所 国際基督教大学 (ICU)礼拝堂

メロディーの応募要件は次の通り
1 どなたでも応募できます。
2 応募はそれぞれの歌

詞につき、1人1作品までとします。

3 歌詞の変更、省略、繰り返しはしないでください。

4 メロディー譜(伴奏かコードネームをつけてもよい)あるいは合唱譜で応募してください。

5 採用にあたり、作曲者と相談の上、教会音楽祭実行委員会が補作する場合がありま

6 応募作品の著作権は作曲者に帰属するものとします。

7 次の事項を記して、楽譜とともに郵送してください。

【氏名(よみがな)、住所、電話番号、メールアドレス、あれば所属教派名・教会名も】

8 締め切りは2025年12月31日(水)(消印有効)です。

9 審査結果は、2026年3月中にホームページで発表します。

送付先 〒116-0003 東京都荒川区南千住5-21-16 日本聖公会千住基督教会気付 教会音楽祭実行委員会公募係

歌詞の詳細は教会音楽祭ホームページ <https://cnf.hoi> をご覧ください。



第15 回るうてる法人会連合総会報告

竹田大地
（日本福音ルーテル天王
寺教会牧師・広報室長）

8月26日～27日の2日間にかけて、東京都三鷹市のルーテル学院大学を会場に第15回もつてる法人会連合総会が開催され、74人が集つた。

總會と併せて、研修として「ルーテルとして何を大切にして、何をしていくのか」を主題に、石居基夫牧師（ルーテル学院大学学長）によつて、教会、法人の歴史を振り返りつつ、またあるうてる法人会連合設立の理念を踏まえながら、2日間にかけて講演が行われた。

一日目は、主題の「ルーテルとして何を大切にしてきたか」を中心に取り上げられ、その後、参加者がグループに分かれて、グループワークを行った。教会、社会福祉法人、学校法人、幼稚園、保育園からの参加者が含まれるグループで、それぞれの参加者が関係する施設・所属する教会において大切にしてきたことを振り返りながら、るうてる法人会連合として何を大切にしてきたかを共に考える機会を持った。法人を越えて交わりの時となり、それぞれのグループでは活発

な分かち合いが行われた。

続いて、パネルディスカッションが行われ、小泉基牧師(札幌教会牧師・宣教師長)がファシリテーターとなり、教会から橘智氏(東京教会代議員・日本福音ルーテル教会会計・東教区財務部長)、ルーテル学校法人会から大柴譲治牧師(大阪教会牧師・ルーテル学院大学理事長・ルーテル学校法人会会長)、ルーテル社会福祉協会から潮谷佳男氏(神水教会信徒・社会福祉法人慈愛園慈愛園子供ホーム・慈愛園乳児ホーム施設長・ルーテル社会福祉協会会長、ルーテル幼稚園保育園連合会から竹田拓己氏(天森教会代議員・大森ルーテル幼稚園園長補佐兼事務長・ルーテル幼稚園保育園連合会会長)が登場し、それぞれの立場から主題について、現場の声を踏まえて、発題が行われた。1日目の終わりには、懇親会がルーテル学院大学のラウンジで開かれ、さらに交わりを深める時を持った。

2日目は、主題の後半部分「何をしていくのか」について、石居基夫牧師からの講演が行われた。これを受けて、再度1日目と同じグループに分かれて、うてる法人会連合が

「何をしていくのか」を共に考え、分かち合う時を持った。

最後に総会が行われ、総会開催時期の調整について協議し、2年連続ではあるが来年も総会を開催

することが承認された。また、高橋睦氏（東京教会信徒・社会福祉法人東京老人ホーム常務理事）・石倉智史氏（西日本福音ルーテル西明石教会信徒・社会福祉法人うてるホーム常任理事）から「今後のうてる法人会連合の役割について」の提言がなされ、これを踏まえてうてる法人会連合の「将来検討委員会」を設

置することが承認され、次回総会への提案を検討することを確認した。

多くの参加者より「参加してよかった」との声に寄せられ、ルーテル教会に連なるそれぞれの教会・社会福祉法人・学校法人・幼稚園・保育園が一体となつ



パネルディスカッションの様子。
左から小泉牧師、竹田氏、
大柴牧師、潮谷氏、橋氏

ルーテル社会福祉協会
2025年総会研修報告

潮谷佳男
（日本福音ルーテル
神水教会信徒・ルーテル
社会福祉協会会長）

今回の総会では、佐々木炎先生（日本聖契キリスト教団中原キリスト教会牧師・NPO法人ホッとスペース中原代表）による「法人と地域と教会」を主題としたご講演と、2日目にはベタニヤホームによる「フードパントリーと地域との関わり、今後について」の研修が行われました。

私は前年度のるうて

る法人会連合会の研修
でも佐々木先生のお話を

伺いましたが、その時は「自分たちの目的に価値を付加する」という視点を学び、今回はさらに「目的そのもののあり方」に気づきをいただきました。(あくまで私見ですが)。

本協会では前年度に「日常の法人・非日常の法人が地域にできること」をテーマに、法人の地域貢献について研修しました。2年にわたり「福祉法人と地域」を取り上げ

てきましたが、キリスト教社会福祉を担う私たちにとって、常に「何がキリスト教的であるのか」を考えることが求められています。

今回の研修で改めて心

に残ったのは、私たちの
行っていることは「神が
求めるサービス」でなけ
ればならない、という点で
す。措置費でカバーでき
るサービスや、国や自治
体が提供するサービスに

とどまらず、それを越える働きが必要たということとです。これは歴史が物語っていることであり、私たちの法人(団体)が国の援助がない時代から活動

を続けてきたことの証でもあります。先人たちが困窮する人々に差し伸べ続けた手は、単なる人道的支援を越えた、まさに「ミッシェン」であったと言えるでしょう。

えるでしょう。

現場ではクリスチャンの働き手が少なくなっているところもあります。が、この歴史を知ること、使命を継続する大切さに気づかされるのではないかと思います。

さて、2年間続けてきた「福祉法人と地域」の研究は、ひとまず一区切りとなります。近年のルーテル社会福祉協会の研修は、毎回50名以上が

参加するようになり、クリスチャンではない方々の参加も増えてきています。研修を通して得られた「気づき」が共有されるよう、運営委員会でも検討を進めてまいりますので、来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

懇親会での様子



聖書日課 購読のお勧め

「聖書日課」は年4回(1月・4月・7月・10月)刊行されており、1月号からご入会いただく「年間会員」の場合、年4冊で1,800円です。年度の途中からご入会される場合は、1冊500円での購読となります。

お申込みは、聖書日課担当の方にお申し出ください。また、WEB会員は年会費1,200円でご利用いただけます。WEBサイトからお申込みください。WEBサイトは二次元コードを読み取ってアクセスしてください。

皆さまのお申込みを、心よりお待ちしております。

ルーテル聖書日課を読む会事務局
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1- 1
日本福音ルーテル教会事務局内
TEL:03-3260-8631 FAX:03-3260-8641
E-mail:seishonikka@jelc.or.jp

